

Y-1

四国の遺構を巡る防災パネル

～ 趣 旨 ～

四国各地には過去の地震・津波に関する記念碑、供養碑が遺構として残っております。碑には、犠牲者への供養とともに当時の被害を後世に伝え、二度とこうした悲惨な被害を後世の人々に味あわせたくないという先人の思いが込められております。
公益社団法人日本青年会議所 四国地区協議会としても、これらの遺構を調査し、地震による津波の被害の甚大さや、当時の先人からの体験及び教訓を知っていただき語り継いでいく事で今後の防災の一助となることを想い、このパネルをできるだけ多くの市民の方たちに見ていただく事を望んでおります。

～ 昭和南海地震概要 ～

昭和南海地震は、1946年（昭和21年）12月21日午前4時19分過ぎに瀬戸南方沖（南海トラフ沿いの領域）78km（北緯32度56.1分、東経135度50.9分、深さ24km）を震源としたM8.0の地震である。

1946年南海地震とも呼ばれ、単に南海地震といえばこの地震を指すことも多い。南西日本一帯では地震動、津波による甚大な被害が発生した。



津波にて道路に押し上げられた漁船(牟岐町)



津波の被害(牟岐町東部)

～ 昭和南海地震による被害 ～

【徳島県】

死者・行方不明者211人、負傷者665人、住家全壊1,076棟、家屋流失536棟

【香川県】

死者52人、負傷者273人、住家全壊317棟

【高知県】

死者・行方不明者679人、負傷者1,836人、住家全壊4,834棟、同流失566棟、同焼失196棟

【愛媛県】

死者26人、負傷者32人、住家全壊155棟

Y-2

昭和南海地震の被害写真



牟岐町
津波は小川に沿って上がった



牟岐町
夜場の左隣の空地に押し込まれた船



牟岐町
田圃の被害



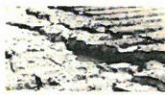
牟岐町の被害



牟岐町
津波襲来後の様子



牟岐町
街の裏手の津波通過のあと



徳島市内
麦畑の地割れ



揺れによる檼の落下
(9径間のうち6径間が落ちた。)



家屋の倒壊



揺れによる堤防の決壊
高知市葛島堤防付近



ビルの倒壊
高知市須賀町付近



地盤沈下による浸水
高知市城見町付近



揺れによる堤防の決壊
高知市葛島堤防付近

【引用/徳島県民会館】

【引用/高知県】

Y
四国の遺構を
巡る防災パネル

Y-3

遺構マップ(徳島県・高知県)



Y-4

①大震潮記念碑(徳島県海部郡牟岐町)



1946年被災当時

牟岐小学校前に、安政南海地震と昭和南海地震の碑が並んで建っています。2つの碑の間には、昭和南海地震の最高潮位4.52mを示す新しい標識があり、住民に津波への注意を促しています。安政南海地震(1854.12.24)の碑は、度重なる地震の記録を留めようと、昭和6年(1931)に建てられています。[安政東海地震(1854.12.23)が午前8時に発生、午前10時に潮の変動が見られたため人々は恐れて山へ避難し一夜を過ごした。翌日(1854.12.25)の午後4時に安政南海地震が発生、約10mの津波が3度押し寄せ、家屋640戸が流出、39名が溺死した。天変地異の前兆。]

Y-5

②浅川天神社「南海大地震記念碑」(徳島県海部郡海陽町)



南海地震津波最高水位

浅川神社

昭和南海地震(1946.12.21)で徳島県最大の犠牲者を出した浅川天神社の広場に、10周年記念に建立された「南海大地震記念碑」があります。「21日午前4時19分に大地震。震後10分余りで津波が来襲。第1波の高さ約2.7m、第2波約3.6m、第3波約3.3mを記録した。死者85名、傷者80名、流家流失185戸全壊161戸、半壊169戸に及んだ。その他、船舶漁具家財および農作物も多数流出した。経戦後の物資不足の時世に多方面から援助を受けたことに感謝する。」などと刻まれています。

②浅川観音堂石段「津波襲来地点石碑」(徳島県海部郡海陽町)



安政南海地震津波襲来地点石碑

昭和南海地震津波襲来地点石碑

浅川の観音堂に至る石段脇に、安政南海地震(1854.12.24)時および昭和南海地震(1946.12.21)時それぞれの津波の到達点を示す石碑が建てられています。それぞれの石碑から、安政の津波は6.4m、昭和の津波は4.1mの高さにもなっています。自分の目撃をその位置に合わせて、石段反対側の家の高さと比較して下さい。津波の恐ろしさが実感できるはずです。昭和の津波は、安政の津波よりもはるかに小さかったことも一目瞭然です。

Y-6

③住吉神社「海嘯潮痕標石」(徳島県阿南市)



住吉神社

阿南市幡町河津田(旧旗戸)の住吉神社の階段脇に、「海嘯潮痕標石」が建てられています。そこには、「昭和21年(1946)12月21日の夜明けに大地震。大倉曾と共に津波が来襲。最初の波は、住吉神社の石段第6段目まで、一旦退き、間もなく再来。2番目の波は10段目まで。この大津波により、大戸、後戸、赤崎、大原、浜、大西、吉澤、大宮、山下、宮宅まで荒海となった。津波は約半時間後に退いた。負傷者3名、家屋13棟、船10艘および家畜を流失し、床上浸水197戸、衣食もほとんど消失、大被害だった。」などと刻まれています。

④和光神社「石碑」(徳島県阿南市)



昭和南海地震津波水位

和光神社

阿南市幡町青木にある和光神社の階段脇に、高さ3m余りの「津波碑」が平成4年に建てられました。この碑には、「懐(く)い地区ではおよそ100年毎に襲われた過去の地震津波の歴史が示され、平常時にそのことを心に留めるよう」と刻まれています。この碑には1946(昭和21)年の南海地震津波と1960(昭和35)年の手形地震津波の浸水高が刻まれ、住民が常にその高さを実感できるようにしています。

Y-7

⑤「震災復興記念碑」(高知県土佐市宇佐町)



土佐市宇佐町「真賀寺」

昭和南海地震津波水位

高知県土佐市宇佐、この地区は湾の奥、津波をまともに受ける位置にあり、過去何度も南海地震等による津波被害を受けてきました。この地区に昭和南海地震の震災復興記念碑に刻まれています。また、同地区の真賀寺には最高潮位を示す碑が建てられています。地震時には、「災害時、家屋の流出・倒壊319戸、半壊323戸、その他床上浸水を含め、全戸の8割2分にあたる1,320戸が被害を受けましたが、人の被害は死者行方不明者各1名のみで、住時から言い伝えられている「欲を棄てて逃れた者は命助かりし」と、犠牲者の僅少はこの戒めによる。応援支援として宇佐山の手、新居地区民の炊き出しを始め、県から罹物、炊事員、建築資材等の支給があり、アメリカ軍政部からは衣料、食料品が続々放出された。また隣接町並びに県内外から芳信が次々に寄せられた。」と刻まれています。

Y-8

⑥賀茂神社「南海大地震碑」(高知県幡多郡黒潮町入野)



安政南海地震碑

昭和南海地震碑

高知県黒潮町(日本で最大の津波想定がされたこと知られる)入野には、賀茂神社の境内には昭和南海地震の津波碑だけでなく、江戸時代安政(1854年12月24日)に発生した南海地震の地震津波碑もあります。津波碑には「家は揺れて倒壊したこと、津波は7回押し寄せ、第4波が最大であったことが書かれています。また、「この前の地震津波は148年前に同じ町がここで起きた事、過去を振り返ると今後100年で次の南海地震がくる」と書かれています。

⑦恵比寿神社「南海地震記録碑」(高知県須崎市大谷)

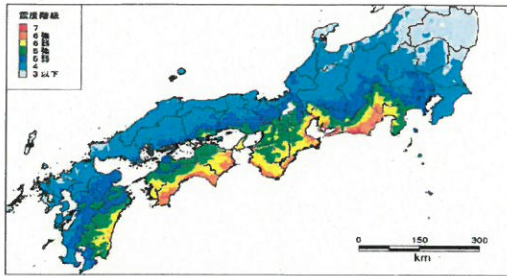


昭和南海地震津波水位

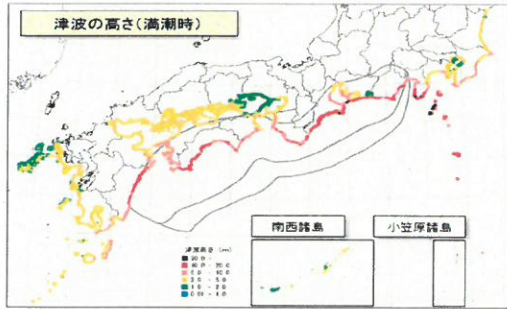
時は、昭和21年12月21日午前4時14分、夜明けの静寂を破った地震は、家屋を崩壊させんばかりに、屋外に出た人もたっていることを見届けた。その直後、18分、同4時32分に地震は終わった。震動したものは再び地震を感ずる。たは自己の行動にも強い、津波の来ることを確信する者もなく、同4時47分、潮は干潮の差が著しく、引き潮し、狭いには記録のごとく侵入し、家屋の大半は水中に没し、引寄せと共に崩壊する家屋は大海に流出した。東潮の回数には9回、3回目の浸水の潮が最高で4メートル30センチに達し、崩壊地盤の沈下は約1メートル、実にありがたい惨害であった。」と記されています。神社の階段には津波の地震最高到達点の碑が建てられています。

南海トラフ大地震

次の南海地震は今世紀前半にも起き、そのエネルギーは1946年昭和南海地震の4倍以上、四国地域での死者数は95,000名、建物全壊棟数は548,000棟と予測されています。四国に住む私たちは次の南海地震に立ち向い、被害を最小化することに努めなければなりません。



基本ケースの震度分布



【ケース①】「駿河湾～紀伊半島沖」に大すべり域を設定



四国の自然災害は津波だけではない

四国は地震、津波だけでなく、台風の前線地帯であり、局地的な集中豪雨も多発するなど自然災害が発生しやすい特性がある地域です。

2014年8月に台風11号、12号による豪雨で徳島県内は大きな被害を受けた。中でも、那賀川の増水により、那賀町複数地区や阿南市員及台地区などは、大規模な浸水被害を受けた。



家は水浸しになり、泥水に浸かった家電製品や布団は廃棄となった。

約1,250名のボランティアのうち、四国地区内より各県の会長、理事長をはじめ11日間で延べ、200名以上の青年会議所メンバーが、民家の損壊家具の運び出し、羽曳町石段の区市作業等に携わった。

四国で助け合う

このような災害に対して、行政、地域、家庭がそれぞれ連携し、日頃から防災に対する意識を一人ひとりが高め、自分の身は自分で守れる「自助」が必要です。
また四国には昔から受け継がれてきたお遍路さんなど四国独自の文化があるように各県の境界を越えて地域の真実等に対しても多くの情報を共有できる文化があります。四国の4県が互いに命を守り、共に支え合い助け合う「共助」の社会を実現していく行動への一助となれば幸いです。

県内のご案内

当パネルは市町村、地域の自治会などで実施される研修会や講習会、イベント等で利用していただくため、防災関連の啓発用パネルとして貸し出しを行っています。貸し出しをご希望の方は当センターまでお気軽にご連絡ください。事前に貸出状況をお問い合わせの上、TEL、FAX、郵送、またはメールによりご連絡ください。

【申込・お問い合わせ先】

徳島県防災人材センター（県立防災センター）
TEL：089-663-2100 FAX：089-663-2002
【青森】公益社団法人日本青年会議所四国地区協議会

